

●いつごろ尿道狭窄症と診断されたか

私は 50 歳男性です。2001 年 5 月（平成 13 年）当時 31 歳、突然背中から腰辺りに違和感があり、全身冷や汗とだるさで救急病院に行き、何とも言えない痛みで数秒たりともじっとできなく麻酔みたいなものを投与され病室で目覚めた時には痛みもなく何事もなかったかのように退院しました。退院後、家に帰ってからトイレに行ったところ尿が砂時計のような出かたで膀胱も張り、翌日病院で泌尿器科専門医を紹介していただき受診したところ尿道狭窄症と診断されました。医師のお話では尿道狭窄があったところに結石が流れてきて尿道を塞ぎ、出にくくなったのではと診断を受けました。治療方法としては内視鏡で尿道を開き、広げるという手術が必要と言われました。

●尿道狭窄症の原因

原因はわかりませんが、思い返せば幼少期に自転車事故で股間を強打した記憶は何となくあります。あくまで何となくの記憶です。それ以外はまったく原因がわかりません。

病気もしたこともなく、他の病気でカテーテルを入れたこともありません。

ただ、高校の頃から他の人より排尿に時間がかかると感じていました。

本当にそれぐらいです。

ただ年々少しずつですが、排尿が終わるまでの時間が長くなってきた感じはありました。

デリケートな部分でもあり、誰にも相談できず、気づけば重症になっていました。

●堀口先生に出会うまでの治療

尿道狭窄症と診断（2001 年 5 月）後、内視鏡による尿道拡張を行う。それで治ると思い手術を受け、術後カテーテルを入れたまま 1 週間過ごしました。カテーテル除去したあとは尿の出が良く快適に過ごせました。ただ快適に過ごせたのは数日でした。カテーテル除去して数日後に尿がまったく出なくなり再度入院し手術を受けることになりました。そこから尿道狭窄による辛い生活が始まりました。何度も繰り返し閉尿になり、同じ病院で同じ手術を 3 回、転院して同じ手術を 1 回、1 年数カ月で 4 回内視鏡による尿道拡張を行いました。転院した病院では手術後も尿道ブジーによる拡張が必要と言われ、3 週～4 週に 1 回ブジー治療を行っていました。

ブジー治療は 2002 年 12 月（平成 14 年）～堀口先生と出会う 2018 年（平成 30 年）、16 年間ブジー治療を行っていました。ブジー治療を行っていたこともあり、なんとか排尿はできておりましたが 16 年間のブジー治療の効果と苦痛も実らず突然ブジー治療後に排尿ができなく閉尿となりました。＜2018 年 1 月（平成 30 年）膀胱瘻留置＞

ブジー治療は本当に辛かったです。表現は難しいですが、傷口に爪でかかれるという感じでした。本当に 16 年間、月 1 回～2 回、延べ 250 回程度、よく頑張ったというか、よく我慢したなど今となっては思います。

●堀口先生との出会いと受診のタイミング

堀口先生のことは受診する3年程前から存じ上げておりました。きっかけは何となくインターネットで尿道狭窄を調べていたら堀口先生防衛医科大学と出てきて、本が出版されているとわかりすぐにアマゾンで購入しました。私にとっては夢と希望のかたまりの内容でした。ただ私が地方からなので埼玉県？防衛医科大学？と馴染のない土地勘と大学の名前は聞いたことはありましたが、自衛隊の病院？本当に土地勘がないのですごく不安なのと、内視鏡ではなく外から尿道を切開、移植とか聞くとこわくてそのまま3年間ほど経ちました。堀口先生の受診のきっかけは突然やってきました。ブジー治療の甲斐も無く、閉尿（膀胱瘻留置）となり、かなり判断が遅かったのですが、私の中ではそれが受診のきっかけになりました。膀胱瘻をつける手術をしたあとは本当に辛く涙が止まりませんでした。

本当に絶望しかなかったと記憶しています。その状況を見て、主治医の先生が堀口先生にメールにて連絡をしてくださったところすぐに堀口先生から返信があり、来てくださいと言っていたので、主治医の先生から「チャレンジしますか」と背中を押してくださいました。それが2018年1月（平成30年）です。

●堀口先生と出会った印象と説明の内容

堀口先生の診察を受けたのは2018年2月（平成30年）、妻と地方から初めての埼玉県です。膀胱瘻つけての6時間の移動はかなり疲れましたが、堀口先生とお会いして、先生からの第一声が忘れもしません「遠いところから大変でしたね」と膝と膝が当たる距離で優しい言葉をかけられ一瞬で疲れが吹っ飛びました。このころはメンタル的にボロボロで涙をこらえるのが大変でした。それとこの瞬間に絶望から希望に変わりました。

診察内容は現在の症状と今までの治療方法、堀口先生がされた手術例、これからのスケジュール、治療方法等終始穏やかで優しく、私の不安な質問にすべてお答えいただき、先生から「かなり遠回りしましたね、生活の質を取り戻しましょう」と言われ、表現難しいですがただただ安心して帰りました。

手術日は8月になりました。早く手術を受けたいと申し出たのですが、私は長年ブジー治療を定期的にしており尿道を無理やり広げていたので狭窄の場所と長さをきちんと見ないと手術に影響しますと言われ、膀胱瘻付けて6ヶ月間は尿道を休め、どこで狭窄しているのか長さはどのくらいあるのかを6か月後の造影検査で評価しますと説明受けました。

●造影検査・手術説明

2018年6月（平成30年）造影検査（狭窄場所と長さの検査）

検査後に手術説明を受ける。

検査結果が予想以上にひどく、私はかなり奥の括約筋あたりの狭窄と中間あたりの狭窄2箇所の狭窄がありますと説明を受け、かなり難易度が高いと言われました。1回の手術ではなく2回に分けて行いますと伝えられました。

1期目の手術は奥の括約筋辺りの狭窄を切除し、狭窄していない尿道と尿道をつなぎ合わせる。もう1箇所狭窄は狭窄部分を切除して私自身の包皮で貼り付ける（移植）という内容でした。2期目の手術は包皮を移植したものがきちんと生着してから筒状に形成しますと言われ、私の場合、結果的に9ヶ月後2019年5月（平成31年）に2期目の手術となりました。

●1 期目の手術と経過

2018年8月（平成30年）に手術を受ける。

私は麻酔と痛み止めで朦朧としていたのでわかりませんでした。妻から手術後に「無事に終わりました、大丈夫です」と説明があったと聞きました。

本当に嬉しかったです。

括約筋のあたりを切開するので尿漏れの可能性もあると言われていたので...

術後（麻酔が覚めた）の痛みはありませんでしたが、尿道からのカテーテルと膀胱瘻も付けていたので扱いが大変でした。

手術から2週間後に造影検査を受ける。

ある意味、合否発表みたいな感じで数日前から緊張していて精神的に辛かったです。

造影検査は無事クリアし、1期目の入院生活が終わり退院しました。

2期目の手術までの変化として排尿出口が変わりました。

私の場合はいわゆる金玉あたりに排尿出口があり、トイレは個室しかできませんが尿の勢いがすごく、すぐに排尿が終わることにびっくりしました。私は17年間ほど排尿困難だったのでトイレ行くたびに感動していました。カテーテルや膀胱瘻も無く、また辛いブジー治療もないこと、また見た目はまったく気づかれず、ただトイレが個室ということ以外は尿漏れもなく本当に快適でした。

●2 期目の手術と経過

2019年5月（令和1年）に手術を受ける

1期目に行った2箇所の内、奥の狭窄部分は問題なく完了と説明を受け、今回は仮に開けた排尿出口を閉じて、1期目に移植した包皮部分を筒状にする尿道形成を行いました。

1期目と同じように麻酔や痛み止めで朦朧としていたので、妻から手術終了後に堀口先生から「問題なくおわりましたよ」と本当に嬉しかったです。

今回膀胱瘻はなく、尿道カテーテルだけだったので1期目より管理しやすかった。

手術から2週間後に造影検査を受ける

この時も数日前から精神的に辛かったです。

この検査で長くつらかったことがすべて開放されるか、されないかの日です。

検査は堀口先生含む数人の先生立会いの下に行われ、造影検査前に膀胱に溜めた造影剤が入った液をそのまま立ったまま「さあ、排尿してください」と言われ全員の前でコップに排尿しました。尿道の先から勢いよく出る感覚は今でも忘れません。排尿後に堀口先生から「100点満点です」と言われた瞬間に先生方の前で大泣きし、もう何を話したのか覚えておりません。

一人で病室にも戻れず先生に付き添われながら帰りました。

辛かった18年、これで普通の生活ができるもう嬉しくて、嬉しくて退院までたくさん水分をとり、トイレに行くのが楽しみでした。

排尿に問題がないことを確認して無事に退院しました。

●現在の様子

2021年5月（令和3年）2期目の手術から2年が経過しました。

排尿もまったく問題もなく日々感謝しながら快適に生活ができております。

排尿が良すぎてトイレの立ちションも人より早く終わることが何か自慢みたいな感じです。

●尿道狭窄症に悩まれている方へ

私は17年間、数回にわたる内視鏡による手術、定期的なブジー治療により尿道も精神的にもボロボロになりました。デリケートな部分だけに誰にも相談できず一人で悩んだ期間今となっては何だったんだろうと思います。

また、私が入院した病棟には全国から同じ症状に悩む方がたくさんおられることに驚いたのと同じ症状なのでお互い励まし合いながら希望をもって入院生活をおくれたことでした。

私はメンタルが弱く、毎回、造影検査数日前から食事もできなく、2期目手術後の造影検査で堀口先生から100点満点ですと言われたとき、いつも話しかけてくださった同じ症状の患者さんが一緒に泣いて喜んでくれたのは今でも忘れません。

同じ症状の患者さんへ

手術を悩まれている方もおられると思います。

私も堀口先生の存在を知ってからここに来るまで2~3年かかりました。

入院病棟にはいろんな狭窄症の方がおられます。症状の軽い方、また私より重症の方さまざまです。私が入院していた期間は皆さん（私もそうですが）笑顔で退院していきました。

どちらにしても内視鏡での尿道切開やブジー治療では治らないことがはっきりしているので、堀口先生の診察を受けるだけでも良いと思います。それから手術を受けるかどうか決めれば良いと思います。

私が治療体験記を書いているのは2021年5月（令和3年）です。

今月、手術後2年の定期検診がある前に作成しました。

私も堀口先生が出版された本の中の体験記とホームページ上の体験記で希望をもらいましたので同じ症状の方へ少しでも希望になればと思い作成しました。

堀口先生へ

本当に有難うございます。

感謝しかありません。

この病気、命にかかわる病気ではないことは理解していますが、生活の質という部分では表現難しいですが、ストレスとか絶望しかありませんでした。本当に辛かったです。

現在は排尿できていることを感謝しながら毎日快適に生活しております。

週2回のトレーニング、スキーに釣り、旅行も...

思い出すと恥ずかしいのですが、堀口先生の前で手術前日の不安で1回、

「100点満点です」と言われたとき嬉しいのとすべてが終わったという感動で1回、

合計2回大泣きして困らせてしまい申し訳ありませんでした。

毎日、お風呂に入るとき膀胱瘻の傷を見て感謝しております。

最後になりましたが、ご担当してくださった先生方、看護師の皆様へ

入院期間中、不安症な私を精神的にも支えてくださり本当に有難うございました。